

令和4年度の取組について

【長寿社会課】

ア 地域の医療・介護の資源の把握

本市のホームページに、市内医療介護機関等の情報に関するリンク先を掲載。

イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

令和4年度旭川市在宅医療・介護連携推進検討会の開催（書面会議） R5.3開催（本会議）。

ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

昨年度と同様に医療と介護の連携推進に関するチラシを配付し、普及啓発を行っている。

エ 医療・介護関係者の情報共有の支援

「あさひかわ安心つながり手帳」を作成し配付。

【配付数（4月～1月）】 605冊

オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援

旭川市在宅医療・介護連携相談窓口の設置（委託先：市立旭川病院）

【令和4年度実績（4月～1月）】

相談件数：21件（電話：20件、来所：1件）

医療・介護関係者との連携：25回

地域住民への普及啓発：7回

カ 医療・介護関係者の研修

目的： 長引くコロナ禍の影響を受け、医療と介護の顔の見える連携に支障が出るなど、大きな変化が生じる一方、市民の中には在宅医療のニーズが高まっている。

そのため、在宅医療に深く携わる医師より、コロナ後の地域医療の現状や連携の課題、高齢者の日常的な在宅療養支援でケアマネージャーの役割などを共有することを目的とする。

テーマ： これからの在宅医療～パンデミックを経験して～

アフターコロナを見据え、コロナ禍により連携が希薄となった現在において、改めて連携の必要性や重要性の共通認識を持つ。

日時： 令和5年3月29日（水）午後6時30分～午後8時00分（予定）

会場： 旭川市大雪クリスタルホール 国際会議場（レセプション室）（旭川市神楽3条7丁目）

講師： 講演1 今本内科医院院長・旭川市医師会理事 地域福祉部部长 今本千衣子氏

講演2 旭川神経内科クリニック院長・旭川医師会副会長 橋本和季氏

対象者： ・居宅介護支援事業所

・小規模多機能型居宅介護事業所

・地域包括支援センター職員

定員90名

開催方法： 集合形式

内容： 講演1

「ケアマネさんをお願いしたこと～地域の高齢者支援のキーパーソンはあなたです～」

講演2

「医療へのつなぎ方～困った事例を通じて考える」

キ 地域住民への普及啓発

1 在宅医療・介護ガイドブックの作成・配付

関係者向け研修会や市民講演会等での配付。他にも市有施設や医療機関等への配付、また、歯科医院と調剤薬局にも配付した。

2 地域住民向けの講座等の開催

目的： 人生の最後を住み慣れた地域や自宅で迎えたいというニーズが高まっており、本市においても自宅での看取り件数が増加していることに加え、超高齢社会や長期化しているコロナ禍の影響により、今後も更に在宅医療を望む市民が多くなることが想定されている。

市民が将来にわたって安心して暮らし続けていくことができるよう、地域住民に対し在宅医療に関する理解促進を目的に、在宅医療に精通する医師を講師とする市民講演会を開催する

テーマ： 在宅医療を望む市民が市民が増えることが想定され、今後「人生会議(ACP:Advance Care Planning)」の普及啓発を目的とする。

日時： 令和5年2月4日(土) 午後3時00分～午後4時40分

会場： 旭川市大雪クリスタルホール 国際会議場(大会議室) (旭川市神楽3条7丁目)

講師： 鈴木内科医院 院長 鈴木 央 氏

対象者： 市民

86名

開催方法： 集合形式

内容： 講師からの講演

演題「できることをできるだけ」～最後まで自分の家で過ごすために～

主催： 福祉保険部長寿社会課が所管する在宅医療・介護連携推進事業のひとつである「旭川市在宅医療・介護連携相談窓口」(委託事業、受託者：市立旭川病院 担当課：地域医療連携課)と保健所保健総務課が所管する在宅医療推進事業は、共に地域住民への普及啓発事業を推進することで、地域包括ケアシステム構築の一部を担うことから、より効果的な事業となるよう共同して開催する。

ク 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

「令和4年度 上川中部保健福祉圏域在宅医療・介護連携推進情報交換会(書面会議)」に参加。

「令和4年度 上川中部保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会(書面会議)」に参加。

【保健所】

○在宅医療推進検討会の開催

取組項目(イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出

必要に応じて開催。第12回旭川市医療推進検討会議は書面開催(令和4年9月)。

○「在宅医療・介護に係る分析支援データ」の把握

取組項目(イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出

国保データベース(KDB)システムを活用した集計データ(診療年度：令和元年度～令和2年度)のうち、旭川市分を抜粋。在宅医療推進検討会議及び関係部局等と共有し現状について理解を深めるとともに地域の課題について検討する資料とする。

→第12回旭川市医療推進検討会議議題(3)、資料3

○「在宅医療・介護ガイドブック」の配付

取組項目(キ)地域住民への普及啓発

関係者向け研修会や市民講演会等での配付

市有施設や医療機関等への配付

○市民講演会の開催

取組項目（キ）地域住民への普及啓発

長寿社会課と共同して開催。詳細は長寿社会課分に記載。

○関係者向け研修会の開催

取組項目（カ）医療・介護関係者の研修

目 的： 新型コロナウイルス感染症流行の長期化に伴い、人生の最期を住み慣れた地域や自宅で迎えたいとするニーズが高まっているといわれている。在宅医療を望む本人、家族が安心してその選択をし、実現できるよう旭川市内における在宅医療に携わる医療・保健職等の質の向上を図るとともに、これから携わろうとする者の知識や関心を高める機会とし、将来人材の育成を図る。

テ ー マ： 厚生労働省在宅医療及び医療・介護連携に関するワーキンググループ及び本市福祉保険部長寿社会課在宅医療・介護連携推進事業で検討を進めている（進めることとしている）「在宅での看取り」をテーマとする。

日 時： 令和4年11月12日（土）午後3時00分～午後4時30分

会 場： 旭川市大雪クリスタルホール 国際会議場（大会議室）（旭川市神楽3条7丁目）

講 師： Aiクリニック 院長 阿部 泰之 医師

対 象 者： ・在宅医療に携わるあるいは関心のある医師、訪問看護師等医療従事者
・医療従事者を養成する教育機関の教員
・地域包括支援センター職員

90名

開催方法： 集合形式

内 容： 講師からの講演

演題 「"home"で生活して終えていく」を当たり前